

「次の世代に負荷・負担を引き継がせない」が政治の目的

負荷・負担の削減の為に

環境＝廃棄物の削減・資源化 リサイクル(循環)社会を

財政＝経費削減・情報公開の徹底 市民参加型社会を

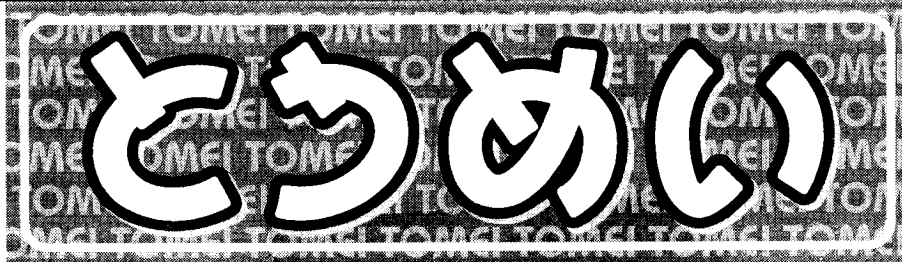
2000年8月尾張旭市の中間処理(焼却)・最終処分(埋立)を担っている二市一町(瀬戸市・尾張旭市・長久手町)の一部事務組合「尾張東部衛生組合」に廃棄物削減、資源化を願い、廃棄物減量成果を数値で示すせる手段として、尾張東部衛生組合運営負担金の割合を、人口割合から排出量割合にするよう陳情致しました。

2001年12月関係二市一町議会にて陳情案件議案が承認されました。

引続き「目的達成」のため出来ることから取組、挑戦します。

2000年(平成12年)8月10日 木曜日

日刊 と う め い



発行所
 とうめい新聞社
 電話(0561)84-2458
 F A X (0561)84-2454
 〒489-0805 瀬戸市陶原町1-8
 (愛陶工西館3階)
 購読料 1か月1,630円

陳情する水野昇さん



ゴミ減量で尾東衛生組合に陳情

元尾張旭市副議長の水野昇さんが瀬戸、尾張旭市、長久手町でつくる尾張東部衛生組合にごみ減

量について陳情書を提出した。

内容は①二市一町の負担金を現在の前年の十月一日現在における住民基本台帳及び外国人登録に記録された人口割りから廃棄物搬入量に応じた負担金とする。

②同衛生組合は中間処理に徹し、最終処分は各市町の責任とする。ここで言う責任とは、金銭出費でなく、有限な最終処分地なのもっと真剣にゴミ減量施策をすべきだ。同衛生組合によると、

十一年度の各市町別の一人が一日に出すごみは瀬戸市九百十八㌫、尾張旭市九百六十㌫、長久手町九百二十九㌫。水野さんは尾張旭市が多いので、市一層の政策努力を訴えている。